



学校だより 第6号

令和元年7月8日
新宿区立新宿西戸山中学校
校長 佐藤 浩
副校長 多久 知明



運動会の御参観

ありがとうございますございました

校長 佐藤 浩

七月二日、あいにくの曇り空でしたが、ようやく令和元年度第九回運動会を実施することができました。本来ならば、予備日の六月十八日に行う予定でしたが、学校が会場の西戸山球場を確保していなかったことから実施することができませんでした。多くの方々に大変な御迷惑、御心配をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。本校では、開校当初から、生徒の手による運動会づくりに挑戦してきました。その理由は、「生きる力」の育成を目指し、生徒一人ひとりが判断力と行動力を身に付け、自己有用感を感じることができるようにとともに、運動会の運営を通して自らの力を最大限に発揮し、教育目標の「参画」を実現して欲しいと願うからです。

今年度も運動会実行委員長を中心とする実行委員会が全校生徒をリードし、積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮し、生徒が主役の運動会、生徒の運営による運動会を創り上げてくれました。実行委員の生徒が日増しに力を発揮するようになり、全校生徒を上手にまとめ上げてくれました。グラウンド内で活躍する生徒たちの姿を御覧いただき、中学生がもつ力の大きさを実感していただけたのではないかと思っています。学校行事の公開は、保護者や地域の皆様から評価を受ける重要な機会でもあります。ぜひ、忌憚らない御意見・御感想を多数お寄せいただきたいと思います。

産休・育休代替教員のA先生が着任しました。よろしくお願いします。

令和元年7月1日、家庭科のB先生の産休育休代替教員として、B先生が着任しました。よろしくお願いします。

<A先生より>

私は、幼少期より就学後も多摩地域で過ごすことが多かったのが第一印象でした。しかし、前任者のB先生は、「充実した設備より、何よりも子どもたちが素晴らしい。」とおっしゃっていました。そのような皆さんとこれから共に活動できるのが楽しみです。どうぞよろしくお願いします。

運動会を成功させるために、生徒に期待したこと…「集団の規律と集団の意識をもって、一人ひとりが担う役割をしっかりと果たすこと」

運動会実行委員長の3年Cさんをはじめ実行委員の皆さんがリーダーシップを発揮し、今年度のスローガン「越えろ限界 作れ新たな伝説」のもとに、全体練習や学年練習に取り組んできました。練習を重ねるたびに、係の生徒一人ひとりが自らの役割について理解を深め、上手に仕事を進められるようになってきました。運動会当日は、それぞれが責任を果たし、見事に生徒の力で最後までしっかりと運営することができました。

また、装飾係も一生懸命にクラス旗の作成に取り組み、クラスの一体感の醸成、運動会の雰囲気づくりに大きく貢献してくれました。

＜一生懸命に係の仕事に取り組む生徒たち 左から出発係・審判係・観察係＞



クラスが一体となった学年種目や学級対抗リレー、感動しました！



全校生徒四百余名の堂々とした入場行進、実行委員長の運動会にかける熱い思いが込められた言葉、代表生徒の力強い選手宣誓など、開会のセレモニーから、生徒たちの意気込みが伝わ



ってきました。運営面では、どの係も3年生が先頭に立ち、2年生、1年生を引っ張ってくれたことで、生徒一人ひとりが自らの役割に徹し、最後までしっかりと取り組むことができました。

競技面では、どの学年も学年種目において様々なドラマが生まれ、大いに楽しませてくれました。



特に3年生の「大ムカデ競争」では、クラス全員が一体となった迫力ある競技を見せてくれました。全員で声を掛け合い懸命に取り組む姿から、「大ムカデ競争」にかけてきた意気込みが伝わり、感動しました。走る種目では、一人ひとりが堂々と勝負に立ち向かい、

真剣に最後まで走り切りました。色別対抗リレーは、選手の迫力ある走りに力強さと逞しさを感じることができました。

また、有志で踊る「新宿西戸山ソーラン」のパフォーマンスは、全員の一糸乱れぬキレのある動きが圧巻であり、運動会に大きな花を添えてくれました。後方では、ほとんどの生徒が一緒になってソーランを踊りました。全校生徒の気持ちを一つにし、学校としての一体感を創り上げてくれた瞬間でした。



生徒たちには、この運動会での頑張りを自信にして、今後も何事に対しても恐れることなく、果敢に挑戦していってくれることを期待しています。

御来賓の皆様、そして、たくさんの保護者や地域の皆様、朝早くから御参観くださり、そして、温かい声援を贈ってくださり、本当にありがとうございました。心から御礼申し上げます。